

各学科の履修方法

学科ごとに、「教育課程表（カリキュラム）」が定められている。また、同じ学科であっても入学年度によって教育課程表が違ふ場合もある。自分の所属する学科および入学年度の履修方法をよく読み、自分が所属する学科を卒業するために必要な科目は何か、どのように履修すれば良いか理解し、履修登録を行うこと。疑問・質問がある時は、各学科の教務センター担当教員もしくは教務課窓口にご相談すること。

現代ビジネス学部 現代ビジネス学科

1 専門教育科目の構成

1. 現代ビジネス学科の教育目的

21世紀の世界においては、近代社会を安定的に形作ってきた諸制度が綻びつつあり、経済と社会の全域で流動化が進んでいる。令和の時代を迎えた日本国内でも、さまざまな要因によって、産業構造や企業活動が大きく変化しつつある。不確実性が増大するビジネス環境にあって、従来成功を収めてきたビジネスモデルや事業運営の方法論が、通用しなくなっていく。

現代ビジネス学部は、こうした社会経済状況を生き抜くために必要な、現代ビジネスの「学」を体系的かつ実践的に学ぶ場として設立された。現代ビジネス学部・学科で学ぶ「ビジネス」とは、営利や非営利にかかわらず、さまざまな組織形態において、特定の価値を創造し事業目的を実現するための、活動の総体を指す。本学科では、そのような広い意味でのビジネスを円滑に進め、成功に導くために必要な知識を体系的に学ぶとともに、学術的な演習授業によって考える力を養い、ビジネスにかかわる様々な活動を含むプロジェクト型学習によって実践する力を身に付ける。

2. 現代ビジネス学科の学びの概要

以上のような目的と構想のもと、本学科の学びの概要は以下のように示すことができる。

現代ビジネスを学ぶ土台となる基礎知識のうえに、マーケティング、経営管理、会計学など、ビジネス学の汎用的な知識と方法論を重点的に身に付ける「地域マネジメント」コースと、今後の成長が見込まれる観光や東北地方の地域振興など具体的なビジネス領域への理解を深める「観光・文化構想」コースという、ふたつの大きな学びの分野と、両コースにまたがる科目群の「共通領域」を設定する。学生は2年次よりいずれかのコースを選択し、自身の興味関心に応じて科目の取捨選択を行い、独自の学びを作っていくことができる。

上記のように体系化された講義科目群による知識開発と平行して、少人数制の演習と実習によるアクティブ・ラーニングの授業を1年次から設定し、論理的思考力、情報収集力、表現力、判断力などの知的能力と、主体性、実行力、課題遂行力、対人関係力などの実践能力（社会人基礎力）を育んでいく。1年次には汎用的な学びを中心とする基礎ゼミが配置され、2年次からは専門性を増

した「ゼミ」を学生が選択する。2～3年次の「ゼミ」は、演習形式の学術研究と実習形式のプロジェクト型学習が対になって構成される。理論と実践を往還する「ゼミ」での学びは、4年次の卒業論文に結実する。

3. 教育課程の特色

大学のカリキュラムは、大まかに「一般教育科目」と「専門教育科目」に分けられる。前者は各学部・学科共通なのでここでは省略し、後者の「専門教育科目」について説明する。「専門教育科目」は1年次から開始されるが、本格化するのは2年次からである。

本学科の「専門教育科目」は、ビジネス学の土台となる基礎知識を学ぶ「専門基礎科目」が主に1年次の必修科目として、2年次以降は「専門基幹科目」が配置され、学年を上げるごとに段階を踏んで専門性を増していく構成となっている。学生は、1年次において「地域マネジメント」と「観光・文化構想」それぞれの分野を広く浅くカバーする導入的な授業を受けた後、2年次から本格的に、コースを選択していくことになる。

アクティブ・ラーニングについては、大学生／社会人としての基本的な素養を身に付ける「ビジネスレディネス」が1年次の前期に、学科の演習／実習授業への導入としての「ビジネス基礎演習」が後期に、それぞれ配置される。実習を中心とするプロジェクト型学習の授業である「ビジネス実践実習」が2～3年次に設定されるが、この科目では2年生と3年生が学年を越えて協働することが求められる。学術的な演習の授業である「ビジネス研究演習」は2年次から4年次までを縦貫する科目であり、卒業論文を書き上げることを最終的な目的とする。「ビジネス研究演習」と「ビジネス実践実習」は同一の教員が担当し、合せて現代ビジネス学科における「ゼミ」を構成する。この学術研究と実践活動とを融合させた「ゼミ」が必修となっていることが、現代ビジネス学科の大きな特徴である。

2 履修方法

◆卒業要件単位

卒業するためには、以下の要件を満たし、合計124単位以上を修得しなければならない（ただし、卒業要件単位に含まれない科目を除く）。

1) 一般教育科目

一般教育科目は34単位以上を修得すること。その内訳は以下の通り。

●必修科目（計34単位）

- 1年次：キリスト教学、基礎演習、日本語演習、女性と人権、自然科学入門、音楽の世界、体育実技、リベラルアーツ基礎A、リベラルアーツ基礎B、英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ
- 2年次：生活と福祉、リベラルアーツ基礎C、リベラルアーツ基礎D、リベラルアーツ総合A、英

語リテラシーⅠ、英語リテラシーⅡ
3年次：キリスト教と現代社会、リベラルアーツ総合
B、リベラルアーツスタディーズA

●選択科目

2年次：体育講義

●自由科目

1年次：ドイツ語コミュニケーションⅠ・Ⅱ、ドイツ
語リテラシーⅠ・Ⅱ、フランス語コミュニケー
ションⅠ・Ⅱ、フランス語リテラシーⅠ・Ⅱ、
中国語コミュニケーションⅠ・Ⅱ、中国語リ
テラシーⅠ・Ⅱ、朝鮮語コミュニケーション
Ⅰ・Ⅱ、朝鮮語リテラシーⅠ・Ⅱ

1～4年次：シーズンスポーツ

2～3年次：実践フランス語Ⅰ、実践中国語Ⅰ

2～4年次：スポーツ、スキルアップ英語、スキルアッ
プドイツ語、スキルアップフランス語、ス
キルアップ中国語、スキルアップ朝鮮語

3年次：日本国憲法

3～4年次：実践フランス語Ⅱ、実践中国語Ⅱ

4年次：リベラルアーツスタディーズB、キャリア形
成論

※一般教育科目の詳細についてはP36～P40を参照

2) 専門教育科目

専門教育科目は、以下の要件を満たし、合計 68 単位
以上を修得すること。

- ①専門基礎科目 必修 10 科目 18 単位を修得。
- ②専門基幹科目 選択 16 科目 32 単位以上を修得。
- ③専門研究科目 必修 6 科目 12 単位を修得。
- ④専門実践科目 必修 4 科目 4 単位を修得。
- ⑤卒業論文 必修 1 科目 2 単位を修得。

①専門基礎科目

専門基礎科目は、ビジネス学の土台となる知識を学
習し、基本的な素養を身に付けるために開講されてお
り、必修科目である。講義ではビジネス学の導入的な
知識を学び、演習では大学生／社会人として必要不可
欠な基礎能力と素養を磨く。加えて、自らの将来を考
えキャリアを設計する視座を得るための科目が用意さ
れている。

②専門基幹科目

専門基幹科目は、「地域マネジメント」コースと「観
光・文化構想」コースそれぞれの分野における、専門
分化した科目群である。すべて選択必修科目であり、
自らの選択したコースの科目から、10 科目 20 単位
以上を修得しなければならない。加えて、両コースに
またがる「共通領域」科目から6科目 12 単位以上を
修得しなければならない。

③専門研究科目

専門研究科目は、高度な知的能力の涵養を目的とし
て、学術的な文献講読、研究発表、議論・討論などを
行なう演習科目であり、すべて必修となる。

④専門実践科目

専門実践科目は、実践力と社会人基礎力の涵養を目

的として、ビジネスにかかわる様々なプロジェクト活
動を展開する実習科目であり、すべて必修となる。

⑤卒業論文

①から⑤までの学びの集大成として、学術的な独自
研究を実施して論文にまとめ上げたものが、卒業論文
であり、必修科目となる。

3) 自由展開科目（認定科目）について

学内外における、インターンシップや各種研修への参
加、特定の資格取得などの実績を学生が学科に申請し、
それが一定の条件を満たしていると学科が認定した場
合、単位が付与される。自由展開科目には「ビジネス研
修（インターンシップ）」と「個別研修」があり、それ
ぞれの科目に関する学科内規に基づき教務担当教員が単
位を認定する。単位認定の具体は、基本的には以下の通
りとなる（ただし、単位認定に関わる最終的な判断権限
は、学科の教務担当教員にあるものとする）。

①「ビジネス研修（インターンシップ）」

民間企業、地方自治体、公共団体、NPO / NGO
などが、教育意図をもって主催・運営するインター
ンシップ・プログラムに参加した場合、その参加実績を、
本科目に振り替えることができる。

インターンシップの参加実績には、学科が定める基
準により単位換算点数が付与される。「ビジネス研修
（インターンシップA）」「ビジネス研修（インター
ンシップB）」についてそれぞれ、2点相当の活動実績
によって、単位認定が可能となる。

②「個別研修」

国外の正規の大学に付属している語学学校等に留学
した場合、それぞれの学校で修了した語学科目を、本
科目に振り替えることができる。加えて、学内外の信
頼のおける運営者が実施するスタディ・ツアー、体験
プログラム、教育効果が認められるボランティア活動
などに参加した場合、その参加実績を、本科目に振り
替えることができる。

また、特定の資格を取得したり、検定試験で一定以
上の結果を得た場合にも、その実績を本科目に振り替
えることができる。

上記の各種実績には、学科が定める基準により単位
換算点数が付与される。2点相当の活動実績／検定結
果／資格取得によって、「個別研修」の単位認定が可
能となる。「個別研修」は再度履修が可能な科目であ
るが、1年間に1回、在学中に最大3回を履修の限度
とする。

「ビジネス研修（インターンシップA）」「ビジネス研
修（インターンシップB）」と「個別研修」は、キャッ
プ制の対象外である。

「ビジネス研修（インターンシップA）」「ビジネス研
修（インターンシップB）」と「個別研修」については、
単位申請をする年度以前に行なった活動や取得した資格
などについても、学科の教務担当教員の判断によって単
位認定の対象とすることができる。

「ビジネス研修（インターンシップA）」「ビジネス研
修（インターンシップB）」と「個別研修」については、
履修登録の必要は無い。その代わり、毎年度末（12月

～1月頃)の定められた期間に、学生が学科へ申請する手続きが必要となる。申請手続きについては、学科掲示板で周知する。申請に関する質問は、学科の教務担当教員が受け付ける。申請書の受け取りおよび提出先は、現代ビジネス学科副手室とする。

申請書に添付が必要な書類は、それぞれ以下の通り。

- (a) インターンシップ：活動内容と時間を証明する書類または報告書に加えて、プログラムの運営責任者または学生教育責任者による活動所見が記入された本学科指定の書式。
- (b) 語学研修など：学習内容、時間および成績が明示された修了証明書 (certificate)。
- (c) スタディ・ツアー、体験プログラム、ボランティア活動など：活動内容と時間を証明する書類または報告書に加えて、プログラムやボランティアの運営責任者による活動所見が記入された本学科指定の書式。
- (d) 資格試験など：資格の認定証 (級数などがあるならそれが記載されているもの) や、試験結果 (得点など) が記載されている書類の複写。

●「ビジネス研修 (インターンシップA)」「ビジネス研修 (インターンシップB)」の単位換算点数

学科の教務担当教員が適切と認める組織／機関における、日数にして合計 10 日間以上、または時間にして合計 60 時間以上のインターンシップを完了すると、2 点が付与される。合計 5 日間以上または 30 時間以上のインターンシップについては、1 点が付与される。

●「個別研修」の単位換算点数

国外の正規の大学に付属している語学学校等が開講する、時間にして合計 30 時間以上の語学講座を修了すると、2 点が付与される。

学科の教務担当教員が適切と認める組織／機関における、日数にして合計 10 日間以上、または時間にして合計 60 時間以上のスタディ・ツアー、体験プログラム、ボランティア活動などを完了すると、2 点が付与される。合計 5 日間以上または 30 時間以上のプログラムについては、1 点が付与される。

検定試験や資格取得に付与される単位換算点数については、下記の表に示された基準を適用するものとする。

4) 自由選択科目

上記以外に、専門教育科目と一般教育科目の中から、選択科目を 22 単位以上修得すること (ただし、卒業要件単位に含まれない科目を除く)。

●他学科開放科目について

現代ビジネス学科以外の学科科目のなかで、他学科開放科目として指定されている科目を履修することができる。ただし、卒業要件単位には含まれない。

●キャップ制について

キャップ制とは、授業の予習や復習など教室外において学習する時間を考慮し、単位の過剰登録を防ぐため、学期間・年間に科目登録できる単位の上限を設ける制度である。

現代ビジネス学科では前期・後期で履修できる単位を

検定試験／資格名※2	実施団体	認定基準	単位換算点数
TOEIC または TOEFL iBT または IELTS	国際ビジネスコミュニケーション協会 国際教育交換協議会 ブリティッシュ・カウンシル	600 点以上 46 点以上 5.5 以上	1
TOEIC または TOEFL iBT または IELTS または 実用英語技能検定	国際ビジネスコミュニケーション協会 国際教育交換協議会 ブリティッシュ・カウンシル 日本英語検定協会	740 点以上 60 点以上 6.0 点以上 準 1 級	2
TOEIC または TOEFL iBT または IELTS または 実用英語技能検定	国際ビジネスコミュニケーション協会 国際教育交換協議会 ブリティッシュ・カウンシル 日本英語検定協会	820 点以上 79 点以上 6.5 以上 1 級	4
中国語検定 または 漢語水平考試	日本中国語検定協会 中華人民共和国教育部	2 級 5 級 (210 点) 70%以上	2
中国語検定 または 漢語水平考試	日本中国語検定協会 中華人民共和国教育部	準 1 級以上 6 級 (225 点) 75%以上	4
「ハングル」能力検定試験 または 韓国語能力試験	ハングル能力検定協会 韓国教育財団	準 2 級 3 級以上	2
「ハングル」能力検定試験 または 韓国語能力試験	ハングル能力検定協会 韓国教育財団	2 級以上 5 級以上	4
日本漢字能力検定	日本漢字能力検定協会	準 1 級以上	2
IT パスポート試験	経済産業省	合格	2
日商簿記検定	日本商工会議所	3 級	1
日商簿記検定	日本商工会議所	2 級	2
日商簿記検定	日本商工会議所	1 級	4
販売士検定	日本商工会議所	2 級以上	2
秘書技能検定	実務技能検定協会	2 級以上	2
ファイナンシャル・プランニング技能検定	日本 FP 協会	2 級以上	2
国内旅行業務取扱管理者	全国旅行業協会	合格	2
総合旅行業務取扱管理者	日本旅行業協会	合格	4
観光英語検定	全国語学ビジネス観光教育協会	2 級以上	2

表 検定結果／資格取得の単位換算点数※1

※1 本表において複数の基準が設定されている検定／資格に関して、上位と下位の検定結果／資格取得が同時に提出された場合には、上位の結果のみが点数付与の対象となる。また、上位の結果に対する点数付与がなされた後における、同等または下位の結果に対する点数付与はなされない。

※2 語学検定で「または」と併記されているものについては、列記されている検定のいずれかひとつのみにより、単位認定申請が可能である。

それぞれ 28 単位、1 年に履修できる単位数を 48 単位としている。ただし、認定科目である自由展開科目は、科目登録の上限に含めない。

なお、優れた成績で単位を修得した学生については、科目登録の上限に含めない科目があるので、詳しくは「キャップ制」(P29)を参照すること。

3 取得を支援する資格

現代ビジネス学科では、卒業後にビジネス・パーソンとして活躍できるよう、次の資格を取得することを支援する。

資格： 日商簿記検定、IT パスポート試験、販売士試験、国内／総合旅行業取扱管理者試験、TOEIC、観光英語検定、ほか

4 教育課程表の記号について

・「卒業要件」…卒業に関わる授業科目

必修	◎
選択必修（複数の科目から指定の単位数を必ず選択する）	○
選択（卒業要件単位）	△
自由（卒業要件単位には含まれない）	◇

5 教育課程表

現代ビジネス学科教育課程表

部門	卒業要件	授業科目	単位	開設年次および単位				再度履修	備考
				1年次	2年次	3年次	4年次		
一般	M G U スタンダード科目	◎キリスト教	2	2					
		◎キリスト教と現代社会	2			2			
		◎基礎演習	2	2					
		◎日本語	2	2					
		◎女性と人権	2	2					
		◎自然科学入門	2	2					
		◎生活と福祉	1		1				
		◎音楽の世界	2	2					
		◎英語コミュニケーションⅠ	1	1					
		◎英語コミュニケーションⅡ	1	1					
		◎英語リテラシーⅠ	1		1				
		◎英語リテラシーⅡ	1		1				
		◎リベラルアーツ基礎A	2	2				可	
		◎リベラルアーツ基礎B	2	2				可	
		◎リベラルアーツ基礎C	2		2			可	
		◎リベラルアーツ基礎D	2		2			可	
		◎リベラルアーツ総合A	2		2			可	
		◎リベラルアーツ総合B	2			2		可	
教育科目	リベラルアーツ 基幹科目	◇リベラルアーツスタディーズA	2			2		可	
		◇リベラルアーツスタディーズB	2				2	可	
	キャリア教育	◇キャリア形成論	2				2		
		◇日本国憲法	2			2			
	外国語	◇ドイツ語コミュニケーションⅠ	1	1					
		◇ドイツ語コミュニケーションⅡ	1	1					
		◇ドイツ語リテラシーⅠ	1	1					
		◇ドイツ語リテラシーⅡ	1	1					
		◇フランス語コミュニケーションⅠ	1	1					
		◇フランス語コミュニケーションⅡ	1	1					
		◇フランス語リテラシーⅠ	1	1					
		◇フランス語リテラシーⅡ	1	1					
		◇中国語コミュニケーションⅠ	1	1					
		◇中国語コミュニケーションⅡ	1	1					
		◇中国語リテラシーⅠ	1	1					
		◇中国語リテラシーⅡ	1	1					
		◇朝鮮語コミュニケーションⅠ	1	1					
		◇朝鮮語コミュニケーションⅡ	1	1					
		◇朝鮮語リテラシーⅠ	1	1					
		◇朝鮮語リテラシーⅡ	1	1					
		◇スキルアップ英語	1			1		可	
		◇スキルアップドイツ語	1			1		可	
		◇スキルアップフランス語	1			1		可	
		◇スキルアップ中国語	1			1		可	
		◇スキルアップ朝鮮語	1			1		可	
		◇実践フランス語Ⅰ	2			2		可	
		◇実践フランス語Ⅱ	2				2	可	
		◇実践中国語Ⅰ	2			2		可	
		◇実践中国語Ⅱ	2				2	可	
	体育科目	◎体育実技	1	1					
		△体育講義	1		1				
		◇シーズンスポーツ	1			1		可	
		◇スポーツ	1			1		可	
		◎経済基礎	2	2					
専門教育科目	専門基礎科目	◎財務基礎	2	2					
		◎ビジネスレディネス	2	2					
		◎経営基礎	2	2					
		◎情報基礎	2	2					
		◎ビジネス基礎演習	2	2					
		◎文化社会基礎	2	2					
		◎ビジネス英語コミュニケーションA	1	1					
		◎ビジネス英語コミュニケーションB	1	1					
		◎キャリアデザイン	2		2				
		◎キャリアデザイン	2		2				

部門	卒業要件	授業科目	単位	開設年次および単位				再度履修	備考
				1年次	2年次	3年次	4年次		
専門科目	地域マネジメントコース	○マーケティング入門	2	2					地域マネジメントコース： 20単位以上選択必修
		○地域ビジネス入門	2	2					
		○地域経営論	2		2				
		○経営戦略論	2		2				
		○商品開発	2		2				
		○流通とビジネス	2		2				
		○日本経済	2		2				
		○価格と国民所得の理論	2		2				
		○資本主義経済の理論	2			2			
		○経営組織論	2		2				
	観光・文化構想コース	○フードシステム	2		2				観光・文化構想コース： 20単位以上選択必修
		○地域マーケティング	2			2			
		○テクノロジーマネジメント	2			2			
		○地域産業論	2			2			
		○時事英語	2			2			
		○観光人類学入門	2	2					
		○観光ビジネス入門	2	2					
		○地域社会論	2		2				
		○グローバル社会入門	2	2					
		○観光地理	2		2				
教養科目	共通領域科目	○ホストとゲスト	2		2				12単位以上 選択必修
		○地域資源論	2		2				
		○多文化社会とビジネス	2		2				
		○多文化共生論	2		2				
		○観光地域づくり	2			2			
		○観光と現代世界	2		2				
		○観光と価値創造	2			2			
		○海外ビジネス	2			2			
		○観光英語	2			2			
		○消費社会論	2		2				
	専門科目	○社会課題とビジネス	2			2			12単位以上 選択必修
		○国際ビジネス入門	2	2					
		○ファイナンス入門	2	2					
		○商業簿記初級	2	2					
		○商業簿記上級	2		2				
		○原価計算	2		2				
		○管理会計	2		2				
		○データタマケティン	2		2				
		○データマーケティング	2		2				
		○経営分析	2		2				
自由科目	○海外市場	2		2				12単位以上 選択必修	
	○アジア経済論	2		2					
	○財務会計	2		2					
	○経営財務	2			2				
	○ICTビジネス	2			2				
	○国際経済	2			2				
	◎ビジネス研究演習A	2		2					
	◎ビジネス研究演習B	2		2					
	◎ビジネス研究演習C	2			2				
	◎ビジネス研究演習D	2			2				
実践科目	◎ビジネス研究演習E	2				2		12単位以上 選択必修	
	◎ビジネス研究演習F	2				2			
	◎ビジネス実践実習A	1		1					
	◎ビジネス実践実習B	1		1					
	◎ビジネス実践実習C	1			1				
	◎ビジネス実践実習D	1			1				
	◎卒業論文	2				2			
	△ビジネス研修（インターンシップA）	2			2				
	△ビジネス研修（インターンシップB）	2			2				
	△個別研修	2			2				
計	一般教育科目	72						可 認定科目 3回まで	
	専門教育科目	134							
	合計	206							